

# BEA VOICE

5年ぶりのオリジナル・アルバム『WAVE』を発表  
コロナ禍で、よりあらわになるスペアザの真骨頂

## SPECIAL OTHERS



# LIVE

SPECIAL OTHERS Tour “WAVE”(QUTIMA Ver.28)

# 05

No.492 May 2020  
The music magazine  
that charms you.

### INTERVIEW

**角松敏生** 40年のスキルを総動員し、  
成熟したアプローチの最新アルバム。

**中田裕二** 音数は少なく、想いは深く。  
中田裕二の歌は静かに、暗闇を照らす。

**石崎ひゅーい** “ポップっていうのは、どれだけ人に寄り添えるか?”  
新作に見る、ポップソングの理想的佇まいと、変わらぬ核。

**藤川千愛** 自分を知りたくて、  
ジャンルレスな楽曲に挑戦しました。



New Album  
**WAVE** 5.13 ON SALE  
SPEEDSTAR RECORDS

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 01. Puzzle         | 07. Good song        |
| 02. TRIANGLE       | 08. Quiz             |
| 03. WAVE           | 09. JAM              |
| 04. Courage        | 10. SERI & RYOTA 2   |
| 05. SERI & RYOTA 1 | 11. Beautiful Orange |
| 06. Wind           |                      |

初回限定盤 / 通常盤 ¥3,300 (tax in)  
※初回限定盤は7インチジャケット仕様  
(収録音源は通常盤と同内容)

# SPECIAL OTHERS

5年ぶりのオリジナル・アルバム『WAVE』を発表  
コロナ禍で、よりあらわになるスペアザの真骨頂

取材 / 文: 古城久美子

SPECIAL OTHERS(以下、スペアザ)が5年ぶりとなるオリジナル・アルバム『WAVE』を発表。昨年のツアーで販売された会場限定シングル『Puzzle』『TRIANGLE』のリア音源を含め、さまざまなカラーを放つ11曲を収録するが、コロナ禍の今、音を楽しみつつしたインスタウルメンタルはまさにスペアザの真骨頂を表していた。

—アルバム『WAVE』の制作はいつごろからスタートしたのですか？  
柳下 毎回直前にバタバタするので、今回は前もってやろうと2年くらい前から制作を進めていたんですけど、途中で機材のほうに

こだわりすぎて、結局、直前はバタバタしたような(笑)。でも、今までやっていなかっただけも追求できて、結果いいものができました。—5年の間に「リスボ盤」やSPECIAL OTHERS ACOUSTICとしての作品も出しています。今回は本家本元、スペアザのオリジナル・アルバムです。

宮原 アコースティックの活動もやっていて気づくのは、アコースティックの楽器はメロディを作りやすいということ。いざ本家に戻るとメロディをカッコよく出せる楽器が少ないんだなと。「それを工夫して聴かせる」ところが本家の持ち味だと再発見しました。又吉 エレキベースも新しくして、目的に合

わせて楽器を変えたり、ミュー化した音を出すために布を挟んで弾いたり、音色も追求したりして、改めて楽器のおもしろさを発見した。レコーディングはそういうのも含め楽しかったですね。

—アルバム・タイトル『WAVE』の由来は？  
柳下 「Puzzle」は、こういう曲もやるんだと驚きつつも「ゴッー」な感じが最高でした。宮原 この曲はすげえ時代性を感じないところが、逆にどんどんよくなつてきて。今、俺らって世代的に若者でもないし、おっさんって言い切る歳でもない。そういう中で時代に添いすぎるのもダサいし、時代を無視して孤高になるのも自分のマインドと違う。いろいろ削ぎ落として、自分たちのやるべき音楽をやれている感じがする今をちょっとよく表現している、このアルバム全体を象徴しているな。

宮原 やっぱ俺たちらしく曲を作ろうって。ロバート・グラスパーやクリス・テイヴのような現代的なエッセンスも考えたくてですけど、あまりにも流行りすぎて俺たちがやる意味ってない。でも、遊びでそういうことを学んでいたから、流行りを追いつきないけど時代に置いてかれすぎてもいないって、いう絶妙なバランス感！

柳下 ちょっとしたミスター・心とマニアク心でミックスされた、ちょうどいい塩梅です！  
柳下 それって、流行りを一番考えぬいた人たちとも言うけど(笑)。結果、個性を大事にしようという。

宮原 一番流行りを気にしてやっただな(笑)。  
柳下 一番流行りしてる、無造作ヘア(笑)。  
宮原 「Q&A」のこともあったアレンジも絶妙だ。  
柳下 ちょっとビリー・アイリッシュみたいだな。  
宮原 期せずして流行りを追えた感じですね(笑)。

—SERI & RYOTAによる曲のインターロールドは、スペアザとしても新しいアプローチですね。  
宮原 完全インプロビゼーションで、そういう曲は初めて入れたかもしれない。  
柳下 ヒップホップのアルバムみたいなノリ

深いアルバムになりそうです。  
—このコロナ禍の今、私は日本語の歌詞入りの音楽が重たくて、いろんな景色が広がっていきスペアザのインターロールドはすくくフィットして、癒しというか、繰り返し聴きたくなりなりました。

宮原 言葉って不完全だからね。理屈と理屈だからぶつかったり、全てを説明できなかったりする。それを巧みに使った文学とかももちろんあるんですけど、俺たちが伝えたいのはもつと「フリミティブな感情で、言葉を使わない音楽は、ものすくく原始的な「コミュニケーション」だと思っんですよ。それで「壮大なオーロラを見たときのように人間の本能に響く」。

柳下 オーロラが、実は言葉よりも「音」をすべきか教えてくれる場合があるって。このアルバムはスタジオ盤ですがライブを感じるような音色になっているから、今、ライブに行けないフラストレーションも少しは解消できるんじゃないかな。

—ツアーでは福岡と鹿児島での公演も予定しています。今の自粛モードの中、いつもと違う感じがありますか？  
宮原 みんなと同じく、先のこととは全然わからなくて。

柳下 でも、逆に、このライブができない状況で、SNSなどでみんなが残念がっていたり、音楽を不可欠なものとしてとらえてくれて、音楽を改めて認識できた。今はギョッと締め付けられているけど、ライブができるようになったときの爆発力みたいなものを共有できる時がくる。だから、福岡や鹿児島でもできたらすげえ楽しいライブになると思います。

又吉 いろいろと動き出したときには、みんな楽しんでくーライブにも来てもらえたら僕らはうれしいです。  
柳下 今、溜め込んでいるものを爆発させるためにも気持ちを高めてもらえれば。また、九州でお会いしましょう！

で、このインターロールドが一番かっこいいってなったらいですね。  
—アルバムとしての作品性がぐんと出て。  
宮原 深みが出たんじゃないかと—  
—アルバム・タイトルが『WAVE』というのには、宮原 『WAVE』という曲ができたタイミングで決めたいんですけど、音って波で表されるんですよ。

—音の波形ですね。  
宮原 プラスの波とマイナスの波がせめぎ合って、繰り返して音になる。マイナスに行く

と絶対プラスに触れようとするし、その逆

もしかりで、それってすなわち人生だなんて。あとは、曲自体にディーブな部分とほっこりする部分とがあつて二面性があることとか…なにせ、プラスとマイナスがなければ音が生まれないってすくく素敵ですよ。

柳下 無音があれば音楽が存在しないって。無音があるからこそ、音楽って成立しているリズムがある。

—波がないと何も生まれない、哲学的でもありますね。  
宮原 哲学的でスーバーかっこいいタイトルになって、こんな特別な時期に出した思い出

**LIVE** SPECIAL OTHERS Tour “WAVE”(QUTIMA Ver.28)  
※詳しくは「BEA WEBサイト」をご覧ください。



SPECIAL OTHERS(スペシャル・アザーズ)  
'95年横浜の岸根高校の同級生にて結成。'06年メジャー・デビューし、'13年には日本武道館でのワンマン・ライブをソールドアウトさせる。'14年よりSPECIAL OTHERSと並行してSPECIAL OTHERS ACOUSTIC名義での活動もスタートさせる。『FUJI ROCK FESTIVAL '16』のFIELD OF HEAVENにてヘッドライナーを務めるなど、全国各地のフェスに出演し注目を集めている。'19年はホールツアーやJAZZ箱ツアー、大型音楽フェスなど、ライブ活動を精力的に行い、会場限定シングル『Puzzle』『TRIANGLE』をリリースした。 <http://www.specialothers.com/>

# 中田裕二

音数は少なく、想いは深く。  
中田裕二の歌は静かに、  
暗闇を照らす。

取材／文：なかしまさおり

中田裕二 TOUR 20  
"DOUBLE STANDARD" (バンド編成)  
**6.6(土) 福岡 イムズホール**

中田裕二の謡うロマン街道 (弾き語り)  
**6.7(日) 佐賀 Edaume (旧枝梅酒造内東の蔵)**

上記公演は開催見合わせとなりました。  
詳しくは「BEA WEBサイト」をご覧ください。

中田裕二 (ナカダユウジ)

'81年生まれ、熊本県出身。'03年、椿屋四重奏にてデビュー。'11年に解散後、ソロとしてのオリジナル作品を発表しながら、カバー、弾き語り、トリオ、ジャズバンドなど多様なスタイルでライブを展開。幼少期に影響を受けた70～80年代の歌謡曲～ニューミュージックを基軸に多彩なジャンルを行き来する丁寧なサウンド・メイク、艶のある歌声&ウィットに富んだ歌詞世界で多くのファンを魅了する。本作収録の「UPDATER」では歌詞とサウンドのギャップに注目。「THE BLACK KEYSとかQUEENS OF THE STONE AGEがやってるような、ヴィンテージなリフロックにコミカルな歌詞を乗っけて歌っていたけど、ちょうどパソコンのアップデートに手こずってイライラさせられていたの、その気持ちをそのまま書いた(笑)」とのこと。ライブでもかなり盛り上がりそうだ!  
<http://yujinakada.com/>

昨年秋に行ったりトリオ編成ツアーを経て、あらためて「少人数で演奏することの楽しさ、また、それぞれの楽器の力強さと自由さに気づけた」という中田裕二。4月15日にリリースした最新アルバム『DOUBLE STANDARD』では、「ここ数年の作品同様」とにかく全体的に「音数を少なく」、かつ「人間的な味わいを感じてほしい」ということに注力したという。「今の時代は人に「貴性を強要し過ぎるところがある。でも、本来人間には「貴性など無く、日々変化し続けるし、いくつもの矛盾を抱えながら、そこ共存して生きていくものなのかもしれない」との想いを込めた表題曲をはじめ、「俺の表現したい景色はこれだ!」とやっと思いついた感じがした。人が絶対的に持つ孤独や寂しさに寄り添うような、これからの自分の表現がやっと思いついた思い入れの深い一曲」となった『海猫』を、時代の流行りに一切媚媚することのない、中田らしいナンバー全部10曲がズバリと並んだ。中でも印象に残ったのは、昨年'Sanctuary

ツアーにも参加していたugaboans (佐藤友亮) の、穏やかながら鮮烈な響きを選んだ鍵盤の彩り。「ルース&タイトなサウンド」で「中田裕二のセンスとサイシー・ネオサウンド」を演じた「エドワードめぐり」や「洗ざ」や「かっこいい気持さ」が表現できた。このアルバムの基本となるサウンドが「一番わかりやすく出ているかもしれない」とする『愛の前で消える』、「とにかく削ぎ落として、歌と詞の世界で聴く人の心の中に風景を浮かび上がらせた」と思った。島崎藤村や泉鏡花が描くような世界観からの影響がすぐ出ていると思つた」と語る『火影』など、今作最多の全8曲で実に多彩なプレイを披露。「佐藤くんはとにかく器用。曲への理解も深く、アナログライクな音作りも上手いので、イメージを共有しながらスムーズにレコーディングすることができました」と中田自身も厚い信頼を寄せている。当然、この後には続くツアーでも昨年以上のコンビネーションを大いに期待させるわけだが、現在では存知のように新型コロナウイルスの影響で、多くのライブが中止

もしくは延期を余儀なくされている。「正直、色々なことができなくなつて、これまでのやり方を考え直さなければいけない大変な状況」にある。それでも「誰もか苦しい思いをされている。そんな中でも必ず出来ることはあると信じているし、創意工夫を持つて乗り越えていかなくてはとも思っています。僕も毎日、何が出来るかを考えながら、色々と試してみよう」と常に前を向くことを忘れない。そんな中で響いた本作ラスト『輪郭のないもの』。そこに込められた「ごだわり」は時に視界を塞ぐ。だから、迷った時は、とにかくそれを捨てること。次への近道となる。人が本当の意味で「生きる」ことを知るためには、目に見えるものや形に囚われることなく、そこから解放される「ごだわり」との想いが今も美しい余韻と共に静かに暗闇を照らし続けている。「今は皆さんが安心して(ライブを)楽しめる状況が来ることを願っています。そして、ツアーなどで再会できたら、その時には、とことん音楽を分かち合いまししょう!」。



New Album  
**DOUBLE STANDARD**  
Imperial Records  
4.15 ON SALE

DVDには2019年9月のtrio saloon TOUR 19"minimal dandyism 3"ビルボードライブ東京公演をMC含め、ほぼノーカットで収録



# 角松敏生

40年のスキルを総動員し、  
成熟したアプローチの最新アルバム。

取材／文：荒木英喜

5月13日、角松敏生がニュー・アルバム『EARPLAY〜REBIRTH 2〜』をリリースする。タイトルを見てわかるように今作は'12年の『REBIRTH〜re-make best〜』に続く、REBIRTHシリーズ第2弾。来年デビュー40周年を迎える彼が、なぜこのタイミングで今作を発表するのか。

「ここ数年は、様々なライブ形態を恒例化するといつていいかもしれません。単純にライブをやめるのではなく、何かしらテーマを設けることで、セリフやお祭りのポテンシャルを上げようと考へました。作品をテーマにしてツアーに反映する。例えば昨年は『東京少年少女』のリリースと各地のダンスパフォーマンスとの共演といった形で具現化してきました。そして、今年のツアーテーマが『Earplay』だったというわけです。昨年は今の私の「新しい表現のあり方の一つ」を提案したので、今年は昔ながらのファンにも喜んでいただけるオーソドックスな娯楽作品を目指しました。ただ懐古的なだけではなく、40年のスキルを総動員して制作しましたので、当然80年代とは違う成熟したアプローチをお届けできると思っています」

今作は80年代に制作された曲を中心としているが、それは、流れてきた時間への再認識と感謝のような意味合いもあるという。これらの曲はここ10年くらいのライブでも披露されている。単にオリジナルをセルフ・カバーするのではなく、リメイクにより新たな魅力を持たせた。そんな今作に洋楽のカヴァーを収録したのはなぜだろうか。「ジャケットを見て大笑いした方も多いと思いますが、これはアイビッド・フォスターとジェイ・グレイドンのユニットが、80年に発表した

アルバム『EARPLAY』のパロディーです。当時まだ19歳やそこらで、背伸びしたい若者だった私にとつてこのアルバムは格好の教科書でした。70年代終わりから90年代初頭までに創られた多くのジャンルの音楽が、そのまま現在の音楽の礎となっているのは明白です。僕はプロの目線とこれらの洋楽を吸収してきました。そこには、時代を客観的に凝視する視点があり、80年代という馬鹿馬鹿しくも偉大な時代の愛情と再認識、そして風刺を込めたのが、このジャケットです。ここまでパロッドで自身でも何かやらなきゃ(笑)。「C'm On Night」は『EARPLAY』に収録のポップな曲ですが、緻密で高度な手法で作成された楽曲であって運びました。「Can't Hide Love (EW&L)」は、多くのアーティストがカバーしていますが、今回はグレイドンがプロデュース、フォスターも参加したティオンヌ・ワーウィックのバージョンをテキストにして制作しました。彼ら二人の表立たない一流の仕事に対してのリスベクトをことうら形式で示すのは、プロがプロに対して払う敬意とは、かくあるべき、と思つています」

本来なら5月10日からスタートするツアーで今作の世界観を楽しむはずだったが、新型コロナウイルスの影響により福岡公演は中止が決定。来年迎えるデビュー40周年ライブのテーマを教えてください。「今作は来年のデビュー40周年、横浜アリーナのライブを盛り上げるアイテムとしての意味合いの方が大きいかなと思います。40年の歴史フラッシュ近年5年の総決算的な意味合いが強く、インスト、ビッグバンド、ミュージカル&ダンストラック、そして80年代回帰回顧という4つがメインテーマになるかと思つています」



New Album  
**EARPLAY  
〜REBIRTH 2〜**  
ARIOLA JAPAN  
5.13 ON SALE



角松敏生 (カドマツトシキ)

'81年、シングルとアルバムの同時リリースでデビュー。彼が発信する心地よいサウンドは、当時音楽に敏感だった人々の注目を集めた。人気アーティストとしての道を歩んでいたが'93年1月、突然活動を「凍結」。その後、様々なプロデュースを手がけ、'98年5月に「解凍」して復活。翌年リリースしたアルバム「TIME TUNNEL」はチャート誌初登場3位を記録した。完成度の高いライブはミュージシャンからの評価も高い。  
<http://www.toshiki-kadomatsu.jp/>

角松敏生  
TOSHIKI KADOMATSU  
Performance 2020  
"Earplay"〜REBIRTH 2〜  
**6.14(日) 福岡市民会館(公演中止)**  
※中止についての「角松敏生」コメントは  
公式サイトに掲載しています。

# 藤川千愛

自分を知りたくて、  
ジャンルレスな楽曲に挑戦しました。

取材／文：前田亜礼



写真プレゼント、  
応募方法は  
P.11をチェック!

日常の葛藤、社会の歪みから恋心まで、共感を呼ぶ詞世界と倍音のヴォーカル力で存在感を放つシンガーソングライター、藤川千愛。デビューから1年半、早くも2ndアルバム『愛はヘッドフォンから』をリリースした。今作は、自己の表現力を探求するためのチャレンジが1つの課題だったという。

「今、ギターも練習中なんですけど、楽器だけじゃなく、今回のアルバムでは、R&B、ロック、ジャズなどいろんなジャンルの楽曲に挑戦しました。あ、自分ってこういうのでもできたんだとか、これはもつと勉強じゃないかな、とか自分の振れ幅が分かって、ここからまた引き出しを増やしていきたいと感しています」

ポーンストトラックを除く全13曲は、自作の詞。リード曲の『東京』では「愛字金とか聞こえはいけど、あとあと思えばただの借金なんだから」と鮮烈なフレーズが飛び出し、続く『神頼み』では「もうちょっと世界をなんとかいい感じに軌道修正してくれてもいいのに！神様！」と、時代とシンクロナブルな叫びが胸に響く。

「私自身、立ち直れないと思った時に、身を委ねてきたのが音楽だったんです。でも、前向きな曲を聴いて前向きになれたことがなくて、それよりも自分と同じ状況だったり、普段みんなが言えないような鬱憤を歌にしたものに勇気もらったので、自分もそういう怒りや悔しさをテーマにしています。『東京』は、愛字金金ももらって進学を選んだ妹のことを思って書いたもの。姉なりに妹が本当はやりたかったことあるけど、安定を選んで夢をあきらめてるんじゃないかと感じることもあって、そんな想いを込めました」

リアルな歌詞は、友人との会話や映画から浮かぶこともあれば、ニュースを見て憤った気持ちを投影したもの。これら独特の詞をヘースに、音楽クリエイター集団Elements Gardenとのタッグによ



New Album

## 愛はヘッドフォンから

日本コロムビア  
4.8 ON SALE

つて表情豊かな楽曲群は仕上がっていった。「何よりこだわったのはグルーヴ感。『東京』はR&B調なんですけど、自分も聴いてくれる人も気持ちよくノれるだろうなっていう歌い方を模索して、この曲だけレコーディングも2日かけて録りました。他にも『あなたを嫌になれました』という楽曲は人魚姫の物語とリンクさせたので、深海をイメージさせる音を入れたり、サビでロングトーンにしたりとか、スタッフさんのおかげで細かな部分まで納得できるものになりました」

ポーンストトラックとして収録されたASIAN KUNG-FU GENERATIONS楽曲『遙か彼方』のカヴァーもスケッチウレ印象的。「映画『ソニン』を観てアジカンとの曲が好きになって、この曲はイントロのハーブ音からかっこよくてライヴでやりたいなあって、かすれ声そのまま、感情を爆発させたヴォーカルが聴きどころです」

1曲1曲とじっくり向き合って完成した自信作を携え、ツアーも予定している。「今は世界的に大変な状況ですが、自分が救われてきたように、自分も音楽で誰かを救えたらと。そんな音楽への感謝を歌ったのがタイトル曲の『愛はヘッドフォンから』です。ぜひアルバムを聴いてもらって、みなさんと元気に会えるのを楽しみにしています」

### 藤川千愛(フジカワチアイ)

岡山県出身シンガーソングライター。'18年11月に開催されたアコースティックライヴにてデビュー。'19年5月に1stアルバム『ライカ』を発売するや否や、iTunesアルバムランキング2位、オリコンデイリーチャート1位、Billboard週間チャート7位に輝く。4か月連続でのシングル配信や、'20年1月にはBUCK-TICKのトリビュート盤へ参加するなど、多彩に活躍中。4月8日、待望の2ndアルバム『愛はヘッドフォンから』を発表した。  
<https://fujikawachiai.com/>



# 石崎ひゅーい

ポップっていうのは、どれだけ人に寄り添えるか?というところ。新作に見る、ポップソングの理想的佇まいと、変わらぬ核。

取材／文：山崎聡美



New Single

## パレード

c/w 世界の終わりのラブソング

EPIC  
NOW ON SALE



ロマンチックであり、同時に残酷なこの世界観は、彼ならではだろう。ホーンセクションを取り入れた華やかなサウンドにポップネスの満ちた『パレード』、ミニマルなピアノの旋律とストリングスにのせた過剰なほど鮮烈な歌が圧倒する『世界の終わりのラブソング』。一聴、対極な2曲を収めたこの5枚目のシングルは、石崎ひゅーいという表現者のアンビバレント性と本質的な孤独の肯定とを際立たせている点において、非常に核心的な作品だ。

「意図してなかったんですけど、リリックするところがすごいあるなあと。この2曲の世界が続いている感じがあるところに、あとから気づきました。去年『パレード』ができて、レコーディングも済ませて、リリースにあたってカプリングどうしようかって話をした時に...思い出したのが『世界の終わりのラブソング』。デビュー当時に(ライヴで)けっこうやってた曲だったんですけど、自然とやらなくなっていく。今考えると...まだ歌いこなせてなかったのかな、と。けっこう『強い』曲ではあると思うので...それを表現するパワーみたいなのが自分に足りないって自覚してたんだと思います。それが今回、思い出してライヴでやってみたら、すごくいいねって話になった。歌った時に僕自身も、すごくしっくりきたというか。そのまま、ライヴのように一発録りで収めようということになりました。元々演劇的な歌だと思ってたから、アレンジもより生々しいほうがいいな、と」

物語風に言うなら、新たな楽曲が過去の曲を呼び起こしたということだ。前述したように実際この2曲は、対極にあって呼応し合うような地続きの世界を以て、石崎ひゅーいの核を物語っている。

「デビューして8年くらいで、表現者として変わってきてる部分もたくさんあると思うんですけど...自分が歌いたいことの核みたいなものはあんまり変わってないんだなってことに気づきました。最新の『パレード』と初期の『世界の』に共通する孤独感、やっぱり孤独に対してすごく敏感になるタイプの人なんだな俺は、って至極。敏感になって、そこを歌わざるを得ないっていう...いつも、ちゃんとした愛みたいなのを描けたらいいなと思って作曲してはいるんですけど、なんかこう、寄ってしまっただけですね、痛みとかそういうもののはっけ」

「18年リリースのベスト盤に収録されたその時点での新曲『ピリオド』について、『ピリオド』の先を見ている。新しいフェーズに行こうとしている感じ」だと彼は前回の取材時に話してくれた。そこからさらにポピュラリティを高め至った今作。最後にその意識について問うた。

「ポップっていうのは、僕としては、どれだけ人に寄り添えるかっていうことで。その寄り添い具合を考えて曲を作るようになってますね。だからシンプルになっているというか、削ぎ落としてる感覚に近くて。そのぶん(歌として)深くなっていくたらいいなと思う。『パレード』は人生の歌が描けたなっていう手応えが自分の中ではあって。そういう意味では、ステップアップできたのかな」

# LIVE

詳しくは「BEA WEBサイト」をご覧ください。

石崎ひゅーい  
Acoustic Tour 2020「Parade for Me」

7.4(土) 熊本 べいあの PLUS'

Band Tour 2020「Parade for You」

7.5(日) 福岡 DRUM SON

FM FUKUOKA BEAT ON BEAT「トラス」

出演：石崎ひゅーい／小山田壮平／長澤知之

8.26(水) 福岡 電気ビルみらいホール(振替公演)

石崎ひゅーい(イシザキヒューイ)

'84年生まれ、茨城県出身。母親より、D.ボウイ譲りの名と音楽・芸術の素養を与えられ、10代半ばで音楽制作を始める。'12年7月、母親の通夜と葬式の日このことを歌った『第三惑星交響曲』を主題曲としたミニアルバムでデビュー。翌'13年7月には1stアルバム『独立前夜』をリリースし、以降、数々の大型フェス出演、映画への出演、舞台音楽の監督や楽曲提供など多才さを発揮している。  
<https://www.ishizakihuwie.com/>

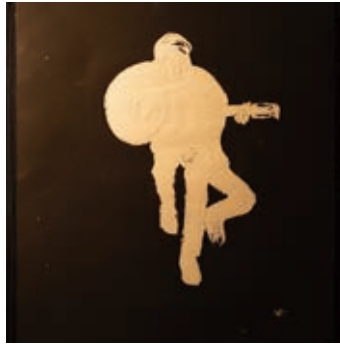
今作をもって臨むはずだった3月末のFM FUKUOKAのイベントに続き、5月からのバンド編成と弾き語りの各ツアーも5月開催分は中止・延期が決定している。「何も心配をせずに心から音楽を楽しむ時まで、お互いがばらばらで、って...」今言えるのはそれしかない、と静かに彼は言う。音楽ファンの誰もが待ち望むライヴの再開。人知の及ばぬウイルスという疫病を前に、この原稿を書いている4月半ば現在、その目地は立っていない。それでも、アーティストも関わるスタッフも皆、思考を止めてはられない。見えぬ光を見出すために、今それぞれがすべきこと、できることをやる。動けない現在の状況は確かにもどかしい、悔しい、けれど《耐える》というアクションと、思考を止めず思索を求めることによって、僕らはその時をただ待つのではなく来たるときに自ら近づけることができるのではないかなと思う。自身のコアと向き合いながら、恐れることなく音楽的変容を続ける石崎ひゅーいの姿も、その時には必ずや見つけてほしい。



Digital Single

## Attractions Chain Reaction

熱狂はしないが醒めても、諦めてもない。自らの温度感を確かめるように内なる矛盾へと没入していくクールなビート感が好感触。身体を震動するプギー・ポップで既にライブでの人気曲だが巣でもりて味わうのも一興。(山崎聡美)



Digital Single

## 折坂悠太 トーチ

しんどい時、音楽は一層響く。魂ごと傾けた歌ならなおさらだ。昨秋ツアーを伴走したbutajiとの共作曲は、意図せずとも跳えられたように今この世界にびたりと寄り添う。二人の強いエンパシーが生活者と繋がる、純然たるフォークソング。(山崎聡美)



Digital Single

## clammbon 夜見人知らず

配信限定シリーズの第1弾は、万葉の時代から残る詠み人知らずの歌のように、一瞬の躍動、仄かな歎びと寂しさを鮮やかに描き切って人心を鎮める。生きるに欠かせぬエレメント、眠れぬ夜、持て余す時間を憂う人に贈りたい。(山崎聡美)



## 今月のプレゼント

「サイン入り写真」  
各1名様



Aコース  
藤川千愛

応募方法/下記①～⑨をご記入の上、  
ハガキまたはe-mailにてお送り下さい。(6月1日消印有効)

- ①希望商品 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤年齢 ⑥e-mail
  - ⑦BEA CLUBの方は会員番号 ⑧最近行ったコンサート
  - ⑨好きなアーティストやライブレポート、その他ご意見・ご感想
  - ハガキ/〒810-0022 福岡市中央区薬院2-10-10 BEA
  - e-mail/beavoice@bea-net.com
- 共に「ビーボイス5月号プレゼント係」まで

## 今月のfeature of the month

毎月、お題に沿っているものもpick up!  
普段知ることのない、あの人のあんな部分やこんな部分も見えてくると  
もしかしたら、あなたとの意外な共通点が見つかるかも…?!

	編集部K	編集部M	編集部E	編集部I
個人的な 家での 楽しみ方	「アウトドア感」 窓際でテントたててコロコロゴロ...	「インテリアを眺めてニヤニヤ」 人には見せられない。	「塗り絵」 スマホアプリで無心にやるのが最近のプチ息抜き。	「ジグソーパズル」 極小1000ピースを作って遠攻バラす! 不毛こそ幸せなり。
仕事が はかどる 曲	高木正勝 「静かな雨(オリジナル・サウンドトラック)」 素晴らしい楽曲! & 在宅勤務中の作業に没頭できる。なお、映画はまだ観てません。	MURA MASA 「Mura Masa」 いい感じにアゲてくれる。	つじあやの 「つじベスト」 穏やかに仕事がスイスイ進む永遠のマイベスト。	Kenmochi Hidefumi 「Shakespeare」 歌なして集中力アップ!

## LIVE PICK UP!



## vivid undress

vivid undress presents 変身コンプレックスTOUR

7月26日(日) 福岡 Queblick ※対バンあり

下北沢を拠点とするロックバンド、通称「ヴィヴィアン」。メジャー第2弾となるミニ・アルバム『変身コンプレックス』が6/10にリリース決定! 新作を引っさげ、ヴォーカル・kiilaの地元・大阪を皮切りに全国6都市でライブツアーを敢行!



## DOG inTheパラレルワールドオーケストラ

TOUR「TASTE OF HOTDOG」

7月31日(金) 福岡 INSA (Topping of C/W) ※マニア限定公演  
8月1日(土) 福岡 INSA (Topping of Doggy Style)

5/24よりこれまで発表した計32タイトル、全172曲をサブスクで一挙解禁! さらに7/21にはニュー・アルバム『HOTDOG』のリリースも! 夏の全国ツアーは神せり必至!



## BURNOUT SYNDROMES

TOUR 2021

2月6日(土) FUKUOKA BEAT STATION

これまで担当したTVアニメのテーマソングと、ゲーム・漫画などへのオマージュ曲を収録したコンセプト盤『BURNOUT SYNDROMEZ』を3月に発売。ベストな選曲でバーンアウト入門編としても◎。初回盤は映像+描き下ろしのコミック付。

## PayPayドームデッキ上 ホークス「みんなのガーデン」 ガーデニングコンテスト

### 今年の20作品が完成! 作品展示中!

最優秀賞

ホークス賞

一人一花賞

テーマ: 「福岡から世界へ、世界から福岡へ」  
一般公募の中から選ばれた全20作品を展示。市民団体の皆さんや、アイドルグループHKT48の松岡はなさん・小田彩加さんの作品が約半年間PayPayドームを彩ります。力作ぞろいの「みんなのガーデン」をお楽しみください。

詳しくはホークス公式サイトへ [ホークス みんなのガーデン](https://www.softbankhawks.co.jp) 検索 <https://www.softbankhawks.co.jp> 福岡ソフトバンクホークス 福岡市中央区地行浜2-2-2

# THE GREAT SATSUMANIAN FESTIVAL 2020

## 開催決定!

# THE GREAT SATSUMANIAN FESTIVAL

## 2020

### 2020.10.17 SAT - 18 SUN

鹿児島市・南栄リース桜島広場&グラウンド

(桜島多目的広場&溶岩グラウンド)

OPEN 8:00 / START 10:30 / CLOSE 21:50 (予定)

オフィシャル先行受付中!  
[www.great-satsumanian.jp](http://www.great-satsumanian.jp)



Facebook @SATSUMANIAN

Twitter @g\_satsumanian

Instagram @SATSUMANIAN

主催 | KKB鹿児島放送 / エフエム鹿児島 企画 | GSH実行委員会ミュージシャン有志 制作 | Zeppライブ / THE FOREST

後援 | 鹿児島市 / 南日本新聞社 / 九州朝日放送 / ncc長崎文化放送 / KAB熊本朝日放送 / OAB大分朝日放送 / UMKテレビ長崎 / FMOラブ (FM福岡) / FM佐賀 / FM長崎 / FM熊本 / FM大分 / FM宮崎 / スペースシャワーTV  
特別協力 | GMOペパボ株式会社 協力 | WALK INN STUDIO / CAPARVO SR Factory / 鹿児島キリスト教文化専門学校 / ツニーミュージックアーティスト / タワーレコード / ビクターエンタテインメント / MUSIC ON! TV / イープラス / Decorations  
わざわざ鹿児島フレンドシップ協定 | 鹿児島ユナイテッドFC 運営協力 | JTB / 鹿児島音協 / BASE CAMP 運営 | BEA